

常照

第771号

近代化する宗教

「宗教なんて古い」という若者が増えているという指摘ししてまがよくなされていきますが、若者の宗教心の不足を嘆なげく声は、奈良時代の古文書にすでに見えており、古今変わらぬ問題でもありません。ただ古いといわれる宗教でありませんが、宗教革命など様々な試練しれんを経へて、欧米など先進国では、近代的知性にも受け入れられる宗教に進化しています。血みどろの努力で勝ち取った近

代的宗教の条件を紹介します。

多神教から一神教へ

神話などに見られるように、山の神、愛の神など、古代宗教はたくさんの神を認めていましたが、近代化した宗教は創造原理としての唯一ゆい神のみ認め、帰依きえします。よくアラアの神、エホバの神などイスラム教とキリスト教では違う神のように聞こえますが、アラブ語で神のことはアラアであり、エホバ（ヤーウエ）は古代ヘブライ語で神という意味です。言わば「神（アラア）の神」という重複表現です。ユダヤ教も含め全く同じ神です。この三つの世界宗教の違いは、神の言葉を伝える預言者として誰を認めるかにあ

り、ユダヤ教ではモーゼ、キリスト教ではイエスとその使徒、イスラム教ではムハンマド（マホメット）などの違いがあります。また神との誓約書としてそれぞれ旧約聖書、新約聖書、コーランを重要視するなどの違いになりましょうか。したがって、神の復活の（再び人類の前に現れる）場としてエルサレムなどは、共通認識の聖地であり、その帰属をめぐっての争いは、新聞報道などでご覧になっていいると思いません。

仏教では、創造神を認めず、業と縁起によって世界は成立したと説明します。ただ浄土極楽の創造原理として阿弥陀仏の本願を真宗では尊重し、帰依することを勧めます。

偶像崇拜の禁止

「鯛の頭も信心から」などという言葉がありますが、むやみに迷信や俗信の類に振り回されない。また除霊のためと称して高額な絵画や壺などを買わせるなど（靈感商法に）たまされない。このような常識外れのものがありがたがるのが偶像崇拜であり、それとの決別を勝ち取ったのが、宗教の近代化です。ただ偶像という言葉から、神や仏の像に手を合わせることも禁止かと思われがちです。イスラム教ではそのような考えがあり、その一部の過激派は人類の文化遺産ともいえる仏像や神殿などをテロ攻撃で破壊しておりま

す。しかしキリスト教ではイエスの像に十字を切ることは、崇高な宗教的行爲と認められており、真宗においても方便法身としての阿弥陀様に手を合わせることを勧めています。そしてお札やお守りの類を用いないのが真宗の偶像崇拜の禁止であり、近代化の証ではないかと思えます。

現世利益の否定

なぜ真宗ではお札やお守りを用いないのでしょうか。そのようなものが何らかの靈性を持ち利益をもたらすことを認めていないからです。このように像であれ、書かれたものであれ、それを手にすることや拝むことにより、お

金や健康を得たり、無事がもたされることを現世利益といいますが、真宗を含め近代宗教では明確に否定されています。欧米では、みんなに公平であるべき神が特定の個人だけに現世での幸福をもたらすのはおかしいというのが現代の主流の考え方です。昔は王権神授説など差別が当然という時代もありましたが、流血を含む何度かの革命なことを経て、自由と平等を勝ち取りました。それではキリスト教の日曜礼拝や、イスラム教の毎日数度の礼拝は何をしているのかという疑問を感じる方もあるかもしれませんが、神をたたえ感謝の言葉をささげているのが、礼拝の主な内容です。もちろんミサなど、世界平和を願ったり、戦争や大災害の

犠牲者などを追悼ついでちうすることはします
 が、このような人類共通の幸福を願う
 こと、また個人的に來世を神にお任せ
 することなどは、個人だけの現世利益を
 期待することとは、明確に区別されて
 います。日本でも特定のお経の名前
 (お題目だいもく)を繰り返して唱えることに
 より、個人の悩みや苦しみから解放さ
 れると現世利益で信者を集めた新興宗
 教がありますが、その代表のI氏も近
 代知性の持ち主たる欧米の知識人との
 対話では、お題目や現世利益のことな
 ど全く触れず、「大乘仏教の精神で世
 界平和を」とのみ主張しています。な
 おある宗教学者は「真の仏教近代化に
 耐えられるのは禅と念仏だけ」と予想
 されています。

四月の常例布教(ご法話)のご案内

○前期 四月七日(土)～十一日(水)

講師 滋賀教区長浜組浄願寺

夏木 一丸 師

○後期 四月十三日(金)～十六日(月)

講師 北海道教区空知北組法忍寺

渡辺 雅俊 師

○場所 小樽別院内

○時間 午後二時(法要終了後)～午後三時半

浄土真宗のみ教えについて布教使にご法話を
 して頂きます。どうぞお誘い合わせいただき、
 ご聴聞に来院くださいますよう、お待ちしております。

発行所

☎047-0017

小樽市若松二丁目四番十七号
本願寺小樽別院
 電話 (〇一三四) 二二一〇七四四番
 FAX (〇一三四) 二二九一四〇八〇番
 テレホン法話 二七一六六一六番